

# 資料 2

全日本空輸株式会社

提供資料

## 【運航乗務員の養成・確保における現状と今後の採用方針】

ANA	有資格者の希望者が比較的多いこと、自社養成という手法も有していることなどから、要件を備えた学生を必要数採用できており、大きな環境変化がない限り特段の課題はないとの認識にあります。
ANA WINGS LCC	現時点においては要件を備えた学生を必要数採用することができていますが、今後、需給バランスに変化(競合増、供給減)があった場合は、人材確保に苦戦が想定されます。

## 【今後の採用方針について】

CPL有資格者(航空大学校、私立大学、養成会社)を中心としつつ、要員数を充足するために自社養成も採用することを基本としております。なお、稼働補完的な位置付けとして、AJXにおいて外国人(限定保有乗員)の採用を行う考えにあります。

## 【乗員等政策検討における要望について】

### ①乗員養成機関(航空大、私立大など)について

- ・エアラインとしてのコスト負担が低減され、かつ、一定以上の技倆を保有したリソースを安定的に輩出できる養成機関を維持・発展させていただきたい。
- ・上記に資する私立大の養成能力の向上に向けて、国による品質面・自己負担面でのサポートをお願い致したい。

### ②新たな養成手法(MPL、AQP)について

- ・MPLは、自社養成訓練生を、効率的に高品質なエアライン副操縦士として養成できるスキームとの認識にあり、円滑な導入を推進することとしておりますが、効果的な運用に向けた支援をお願い致したい。
- ・AQPは、MPLにおける副操縦士に加え、すべての運航乗務員にかかわる訓練審査の効率化とともに、運航品質向上が可能となるため、積極的な導入に向けた支援をお願い致したい。

## 整備要員確保に関わる現状と想定規模について

### ◆弊社グループで必要となる新たな整備士数について

現在弊社グループでは約3550人の整備士を保有しております。2015年度、2020年度の大量退職と今後の事業規模の拡大へ対応するためには、年間80～120名の採用と2020年度(保有人員 約3250人)までに約550人、2030年度(保有人員 約3100人)までに約1550人の新たな整備士の確保が必要になると予測しております。

## 乗員(整備士)政策等検討における要望について

### ◆整備士養成に関わる国際競争環境の構築について

現在要望中の技術規制の緩和について鋭意検討願いたい。

既に技術規制の緩和要望(EASA資格と同等な資格制度の構築)を挙げさせていただいています。本委員会としても後押ししていただきたい項目を以下に記述いたします。  
(裏面)EASAについての補足あり

#### ◎資格取得に関わる法的要件(訓練時間等)の国際水準への整合

- ・世界的な標準となっているEASA制度を意識した必要訓練量の削減
- 【例】大学や工業高専卒の資格を保有していない人財に対する必要訓練量(日本:約3000時間、EASA:約500時間)

#### ◎一等航空整備士資格養成に関する民間能力の更なる活用

- ・全ての試験(学科・実技)の実施者を指定養成施設へ委譲

#### ◎生産を担いながら実務を通じた質の高い整備士の養成環境の構築

- ・実務実績をもとに、資格要件となる教育訓練時間の合理的な削減を可能とする仕組みの構築

### ◆航空整備を担う優秀な人財の確保と活用について

産官学一体で日本人リソースの育成・活用環境を構築願いたい。

将来の航空産業を担う優秀な人財を確保するため、育成・活用環境の構築について管轄省庁横断的な検討を産学と連携して推進することをお願いいたします。

#### ◎国立教育機関における航空学科の設立

- ・航空産業を担う上で、基礎的な知見と実務に則した教育機会の付与

#### ◎公的奨学金等の経済的支援環境構築

- ・航空専門学校等の成績優秀者に対する奨学金等の支援環境の整備

#### ◎入社前の教育時間を資格取得の教育訓練実績にクレジットできる環境の構築

- ・教育実績を資格取得に関わる教育訓練実績に活用できる環境構築

【別添】

● EASA (European Aviation Safety Agency)

2002年7月15日に設立が批准され、2003年9月28日に正式設立された。主たる業務はヨーロッパにおける民間航空分野における各種調整を執行する。

成長するアジア各国(中国、韓国、フィリピン、シンガポール等)は同等もしくは、EASAへ加入しており、世界の趨勢になりつつある。重整備受託専門会社、訓練会社、機体リース等の航空付帯サービス業界ではEASAレギュレーションなくして航空ビジネスは成り立たなくなっている。

＜整備士資格(一等航空整備士・CAT B)取得における日本(弊社実態含む)と欧州(EASA)の比較＞

◆資格を保有していない場合

	JCAB	EASA	
実務経験	4年	2年	5年
訓練時間	2970時間 (座学1400時間・実技1570時間)	2400時間	座学150時間 実務訓練1ヶ月
学科試験実施者	国	民間	
型式試験実施者	国	民間(養成課程内)	

◆下位グレード資格を保有している場合

	JCAB	EASA	
実務経験	2年	2年	3年
訓練時間	2970時間 (座学1400時間・実技1570時間)	1692時間 ※LTTの場合	60日(自己学習込) 座学150時間 実務訓練1ヶ月 ※LTTの場合
学科試験実施者	国	民間	
型式試験実施者	国	民間(養成課程内)	

※ LTT:ルフトハンザ テクニカルトレーニング社(指定養成施設)